

# 特別授業報告 『地域資源の再発見と進路選択』

都立新島高等学校

更新日 令和4年7月26日

## 世界規模の課題解決も、地域から

新島高校は令和3年度から令和6年度までの4年間で、東京都教育委員会が指定する地域探究推進校（アソシエイト）として選ばれ、活動を進めています。この取組の目標は以下のように定められています。

探究的な学びを通じて、地域の課題を発見しその解決を図ることにより、新しい時代に求められる資質・能力を育み、将来、地域で活躍する人材の育成を目指す。自治体や大学、企業等によるコンソーシアム等を構築し、探究学習と各教科の学習を関連付けた特色ある教育活動を実践する。

（東京都教育委員会HPより引用）

現在、日本各地や世界中のいたるところで、少子高齢化や食糧危機、貧困や男女間格差といった共通の課題が噴出しています。国連では、これらを『SDGsの17の目標』と『169のターゲット』してまとめ、各地域、各国の実態に応じた達成目標の設定や解決への取組を推進しています。

## 観光の視点から地域を見直す

新島高校では、各学年の『総合的な探究の時間』や3年必修選択『新島研究』を中心に、地域と連動した学びを実践しています。それとは別に、外部講師を招聘し、地域の魅力や課題をメタ認知（客観視）する機会も設定しています。

このたび 7月15日(金)に、観光をテーマにした特別授業を実施しました。新島の地域産業を考える際、観光業を外すことはできません。青い海、白い砂浜、満天の星空。歴史や地理にも見どころが多い新

島は、来島者が絶えない人気観光地。観光を切り口に地域の魅力や課題を考えることは、生徒が地域理解を深める、またとない機会となります。

即効性のある世界規模での課題解決案は、簡単には見つかりません。しかし、身の回りにある人や環境に働きかけることからなら始められます。そして、規模が小さく成果が見えやすい離島や中山間地域は、課題解決に取り組む先進地になりえます。

各地の実践を柔軟に地域課題解決に取り入れ、その土地ならではの工夫を交えながら、豊かで充実した生活を送ること。そのためには、地域に住む一人ひとりが地域の魅力や課題を自分事として捉え、主体的に活躍していくことが必要になります。



新島村式根島泊海岸(6月浜清掃活動にて)

講師は、東京成徳大学子ども学部子ども学科特任教授 寺本潔先生。寺本先生は観光基礎人材育成をテーマに、学校での観光教育実践を研究しています。今回は、元新島高校教諭で、現都立砂川高等学校主任教諭の山崎久登先生に御紹介いただき、特別授業実施の運びとなりました。

### 目次:

世界規模の課題解決も、地域から	1
観光の視点から地域を見直す	1
古文書から新島を見る	2
観光から新島を考える	2
生徒のSWOT分析、発表	3
地元民が気付にくい、地域ならではの特徵	3
生徒の感想	4

### ハイライト:

- ・地域課題の解決が持続可能な社会を実現する
- ・専門的見地によって課題へのアプローチは変化
- ・地元の良さを私たち自身が語れるようになる
- ・地域に対するパラダイムシフトが見られる生徒の感想

## 古文書から新島を見る

特別授業は、山崎先生の古文書講座から始まりました。新島の観光について考える授業で、なぜ古文書講座？ 生徒は疑問を抱きつつ、山崎先生の話に耳を傾けます。

山崎先生は大学時代から古文書研究を続けており、教員になってからも各地に残る古文書の読解や調査を続けています。新島高校在籍時も、新島村博物館保有の古文書研究を行い、地域の学びの場『古文書を読む会』の講師を務めるなど、第一人者としてめざましい活躍をなさっています。

古文書(こもんじょ)とは、特定の人物に宛てた文書のことです。古文書は、受取手が特定されない古記録(こきろく)と区別して扱います。新島に現存する古文書数は一万点以上。これは伊豆諸島の中で特に傑出しており、この数を知った生徒も驚きの声をあげていました。

最後に、新島の古文書のコピーが生徒に配布され、読解へのチャレンジを行いました。初めての古文書の文体に苦戦しながらも、既存の知識や読み取れた文字から単語を推測し、周囲と協力しながら読解を進める生徒たちは真剣そのもの。最終的に『船路の通行手形』と読解できた古文書の詳細な解説を聞き、内容への理解が深まりました。

古文書という視点から、新島の歴史や人々の生活様式を読み解き、思いを馳せる山崎先生。文書がメッセージを届けた時代から、保存という後世に伝える行為を経て、現代の私たちにも「何か」が伝わる。

## 観光から新島を考える

2時間目は、寺本先生の講義でした。

前日入りして撮影した新島の観光スポット写真を交え、スライドを展開していく寺本先生。生徒たちは、生活に溶け込んだモヤイの石像や羽伏浦の海岸、コーガ石建築を見直しながら、新島村の日常風景が観光客にとっての非日常に一役買っていることを再認識します。また、離島ブーム最盛期の新島前浜海岸の写真と現在の比較を行い、人々の観光需要の推移や変遷を考えました。

その後、『新島にこれほど多くの古文書が残っているのはなぜか』を考えるタスクが課されました。文書作成が好きだったから、もったいないと考えたから、みんなにメッセージを残そうとしたから等、多くの意見が出されました。答えを待つ生徒を前に、山崎先生は「正解などわからない」とバツサリ。「答えが一樣に定まらないことに対して、論理性や根拠をもとに考え、試行錯誤を重ねる。誰かが与える答えを求めるのではなく、主体的に取り組んで最適解を探す行為そのものに価値がある。」



山崎先生の話聞き、古文書解読に取り組む生徒。

「誰かが与える答えを求めるのではなく、主体的に取り組んで最適解を探す行為そのものに価値がある」



人に伝えることの難しさや大切さは、人の営みが続く限り不変である。このようにまとめて、1時間目の講義は終了しました。

生徒は「山崎先生は、新島に住む私たちより新島に詳しい」との感想を寄せていました。専門的見地を有する人が見た新島は、生活の場として捉える私たちのそれとは異なることを知った生徒たち。自分たちの生まれ育った地域の良さや特徴を見つけるために、学問や経験を通して知識や視点を得る重要性を感じ取れた講義でした。

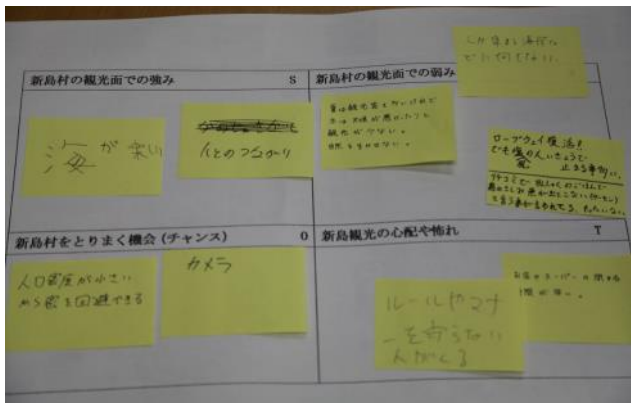
コロナ禍もあり、観光客減少に悩む新島。そんな新島の魅力や課題を、SWOT分析で考えるグループワークが始まりました。

### SWOT分析

Strength(強み)、Weakness(弱み)、Opportunity(機会)、Threat(心配や恐れ)を1枚のシートに並べ、現状を客観的に分析する手法。指針や目標の決定、行動の見直しなどに用いる。



## 生徒のSWOT分析、発表



一人3枚ずつ配布された付箋にSWOTを書き込み、4人班で共有するグループワークでは、実に多様な意見が飛び交っていました。面白いのは、同一のキーワードが強みにも弱みにも分類されていた点。例えば、「海」。近さや透明度、シュノーケリングやマリンスポーツは強みとして捉えられていた反面、「海」の温度上昇がもたらす漁獲量減少や波浪による船の欠航は明らかな弱みとして挙げられていました。他に、「人のつながり」はモノや情報のやりとりで強みとなりうる一方で、

閉鎖的なコミュニティ、よそ者を除外する雰囲気といった弱みでもあるとする意見もありました。

また、心配や恐れとして、「観光客のマナーやルール」が複数の班で話題になりました。逆に、観光客視点で「観光地の人々のホスピタリティの低さ」が問題になることもあります。この点を寺本先生は『観光者としての資質向上』として取り上げ、どちらの立場でも相手の文化や価値観を思いやることの重要性を語られました。

## 地元民が気付きにくい、地域ならではの特徵

終わりに、村内各所に設置されているパンフレットを取り上げ、「観光ガイドブックに書かれた内容を、その地元に住む人は自分の言葉で語れるか」と問う寺本先生。



白ママ断崖、コーガ石、流人墓地、明日葉、くさや……。"新島といえば"

が枕詞のワードを真に語るには、島を離れて地元以外に住む経験や、他の地域との比較も重要です。

潮騒と虫の鳴き声だけで過ごす、静かな夏の夜。ディーブルーの海を背景に散歩する贅沢。人々が連携して作り上げる、お祭りや地域行事の賑わい。湯の浜露天温泉での他愛ない会話。住み続けて感じる慈悲深い魅力を、自分たちの言葉で発信できるようになる。これも観光を軸に地域を考える到達点の一つでしょうか。

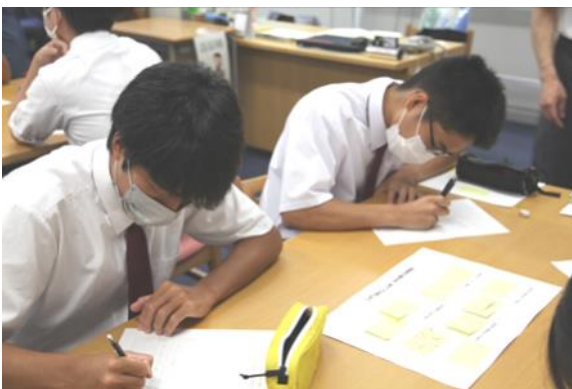


## 生徒の感想から



○ 私たち一人ひとりが文化や歴史に興味を持ち、誰かに伝えたいという想いを持つことが大切だということを学びました。新島の歴史と生活文化については知らないことがとても多く、今日初めて知ったことが沢山ありました。

○ 島は都会に比べるとコンビニもないし映画館もないしファーストフード店もないし不便なところがなにかとあったり娯楽が少なかったりするけど、新島だからこそ楽しめる、という強みをどんどん探して見つけていけると良いなと感じた。



○ 今あるものを未来に残していくことはとても大変なことだと思うけど、昔の新島の人のように大切なものを守り、残していく気持ちをもつことが大事だということがわかりました。ですが、今のままの新島を続けていだけだとなかなか発展することはできないので、今日やったSWOT分析などを通して、様々な視点を持ち、観光と新島の歴史2つを合わせて考えながら、今後新島が発展するためには何が必要なのか、何を改善したらもっと島が良くなるのかを考えて、新島村全体がもっと良くなっていくといいなと思いました。

○ 僕は、新島の歴史や文化について知った気でいました。ですが、まだ生まれてから17年しかたっていないので、知らないことが多すぎます。新島と聞いたら夏というイメージがあります。多分海が近くて、海の幸にも恵まれているからでしょう。でも僕は、一年を通して新島の雰囲気を味わうのも良いんじゃないかと思います。また、牛乳せんべいがなぜ新島名物として扱われているのかが気になりました。自分でも調べてみようと思います。

○ 新島にいと東京の方がよく見えますが、SWOT分析してみると島の良いところも数多くあるんだなと思えました。自分以外の意見も聞けて、すごく勉強になりました。島に住んでいると他の島には訪問しにくいのですが、パンフレットを比較するなどして、他の島や新島を調べたいのはやってみようと思いました。



2時間の授業後、教員対象の研修会も開催しました。『持続可能な観光と地域磨きを考え合う探究的な学び』をテーマとしたお話は、地域に貢献する人材育成を目指す新島高校にとって、大きな財産となる内容でした。

寺本先生、山崎先生  
ありがとうございました！